

高原地域における夏秋ホウレンソウの品種選定

農業研究センター 高原農業研究所

研究のねらい

夏秋ホウレンソウは、市場の需要と収益性が高く、高原地域における野菜栽培の中で大きな位置を占めており、より良い品種の選定が必要である。そこで、生育の早さ、収量性、抽台の多少(晩抽性)等を評価し、この作期の有望品種について検討した。

研究の成果

1. 6月播種

対照品種を‘オリオン’として比較した。長日条件下におけるの抽台の少ない品種の選定を行い、晩抽性に優れる‘オリオン’(普及品種)と‘ミレイ’を選定した。

2. 7月播種

対照品種を‘アトラス’として比較した。抽台による減収が軽微で、生育及び収量は全般的に安定していた。この作期では、株重、晩抽性に優れる‘アクティブ’を選定した。

3. 8月播種

対照品種を‘アクティブ’として比較した。各品種とも、抽台はほとんど認められなかった。また、葉柄の伸長がみられた。この作期では、株重及び収量性に優れる‘風太郎’を選定した。

4. 9月播種

対照品種を‘ソロモン’として比較した。各品種とも全般的に良好な生育を示した。

この作期では、生育が早く、株重及び収量性に優れる‘風太郎’を選定した。

第1表 各作型における夏秋ホウレンソウの生育及び収量

播種期	年次	品 種	株重 g	草丈 cm	葉身 長cm	葉柄 長cm	葉柄 比	抽台 率%	収量 kg/a	生育 日数	評価
6 月	H 3	オリオン(*)	28	28	13	15	0.54	62	123	32	
		晩抽パルク	31	30	15	16	0.52	90	47	32	
		おかめ	31	31	13	19	0.60	90	62	28	
	H 5	オリオン(*)	19	23	12	10	0.45	9	87	29	
		サンコン	21	25	13	12	0.48	16	111	29	
		晩抽サイカ	32	28	16	13	0.45	11	117	29	
ミレイ		28	26	14	12	0.46	10	138	29		
		マ-ライダー	21	25	13	11	0.46	0	100	29	
7 月	H 3	アトラス(*)	37	31	15	16	0.52	64	157	33	
		アクティブ	38	33	16	18	0.56	55	145	33	
		マルス	35	30	15	16	0.52	55	146	33	
		エディ	43	34	16	19	0.54	80	160	34	
		タイソン	32	27	14	14	0.50	45	126	34	
8 月	H 5	アクティブ	25	30	15	16	0.52	0	115	31	
		アレフ	27	32	14	18	0.55	0	95	31	
		F 1 M D	24	28	14	14	0.49	0	109	31	
		しらさぎ	25	33	15	18	0.55	0	98	31	
		風太郎	26	34	15	19	0.56	0	125	31	
		鮮太郎	23	34	15	18	0.54	0	98	31	
9 月	H 4	ソロモン(*)	56	32	15	16	0.51	-	209	43	
		強力オーライ	30	26	15	12	0.46	-	120	36	
		シーマ	47	32	17	15	0.47	-	150	43	
		風太郎	38	31	17	15	0.47	-	137	36	
		鮮太郎	39	28	15	13	0.46	-	131	43	

注) 1 . (*)は、普及品種を示す

2 . 播種日は、6/1(H3)、6/1(H5)、7/22(H3)、8/20(H5)、9/17(H4)

3 . : 特に優れる、 : 優れる